フリル飾りの魔弾

無垢で、無知な、フリル飾りのお姫様。
彼女が全てを知った時、少女時代は終わりを告げ、血塗られた復讐劇が始まる。
彼女が放った、弾丸たちの物語。
（掲載日：2015.6.26）

プレアクト情報

PRE-ACT INFO

■シナリオ基本情報

▼作者
あるば（twitter：@Alba_gard）

▼プレイヤー人数
３～４人

▼想定プレイ時間
４～５時間

▼シナリオタグ
カーライル、復讐譚、ビターエンド

●このシナリオについて

本シナリオはストリートを舞台にした復讐劇を描いたものだ。結末はややビターなものとなるが、N◎VAのストリート“らしさ”を体感できるシナリオとなっている。

●シナリオレギュレーション

本シナリオの想定レギュレーションを以下に記載する。使用するデータの変更やRLが調整を行った場合、改めてレギュレーションを提示すること。

▼使用経験点
0～100点程度

▼達成値制限
ゲストの最大達成値は21である。
ただし、支援によりこれを超えることがある。

■アクトトレーラー

キャスト作成の前に、以下のアクトトレーラーを読み上げること。これはアクトのイメージを膨らませるのに役立つ。

カーライルの幹部のひとりにして、誇り高きマフィオーソ、ドン・サンダース。彼の一人娘が、トーキョーN◎VAへとやってきた。
少女は、父親の稼業を知らない。
それは愛する家族と過ごす、楽しい休暇のはずだった。

だが、幸せな時間は突然に終わりを告げた。
少女は復讐のために、慣れない手つきで銃をとる。

大人への通過儀礼は、ときに痛みをともなう。
それは最低最悪な形での、子供時代の終わり。

トーキョーN◎VA THE AXLERATION
『フリル飾りの魔弾』

かくて運命の扉は開かれた。

■キャスト作成

プレアクトシート（アクトトレーラー、ハンドアウトなど）を参考にキャストを作成すること。

●クイックスタート

本シナリオでは、以下のサンプルキャストを使用することを推奨する。
『①カブト』：現代の騎士（『TNX』P90）
『②レッガー』：任侠剣士（『TNX』P93）
『③フェイト』：不屈の探偵（『TNX』P83）
『④カブトワリ』：災厄のカゼ（『TNX』P92）

●プレイヤー人数が４人以下の場合

プレイヤーが３人の場合は『④カブトワリ』を抜くこと。

●必要な神業

ゲストが使用する即死系神業だけでキャストが死亡することを防ぐため、『①カブト』の推奨スタイルの神業の他に、キャスト全員で１個以上の防御系神業が必要だ。
また《真実（トゥルース）》に使用方法が想定されている。

●主に使用する技能

本シナリオの情報収集で主に使用する社会技能は、〈社会：ストリート、警察〉などである。

■キャスト間コネクション

キャスト間コネは、以下の順で取得する。
『①カブト』→『②レッガー』→『③フェイト』→『④カブトワリ』→『①カブト』

アクトハンドアウト

各キャストには右記の設定が推奨・あるいは追加される。
キャスト作成時によくプレイヤーと相談すること。

①『カブト』：フリーランスのボディーガード
②『レッガー』：カーライルのマフィア
③『フェイト』：フリーランスの探偵
④『カブトワリ』：フリー、またはカーライルの殺し屋

①推奨スタイル：カブト

SCENARIO HANDOUT

コネ：オリヴィア　推奨スート：理性

カーライルの重鎮、ドン・サンダース。その令嬢が父親に会うために、北米からやってくる。滞在中、彼女の身の安全を確保すること。それが、今回のキミの仕事だ。しかし、マフィアのボスに溺愛されて育った一人娘は、とびきり世間知らずの“お姫様”だった。
――これはひとりのカブトが、無垢な少女の願いによって、一発の弾丸となる物語だ。

【ＰＳ：オリヴィアを守る】

②推奨スタイル：レッガー

SCENARIO HANDOUT

コネ：ドン・サンダース　推奨スート：理性

キミはカーライルの一員だ。最近北米からやってきたカーライルの下部組織、サンダース・ファミリー。そのボスであるドン・サンダースは誇り高き男だ。ある日、キミは彼に一人娘の世話を頼まれた。キミはうなずいた。それが彼の遺言になるとも知らずに……。
――これはひとりのレッガーが、敬愛するドンの鎮魂のために、一発の弾丸となる物語だ。

【ＰＳ：サンダース・ファミリーに尽くす】

③推奨スタイル：フェイト

SCENARIO HANDOUT

コネ：マニキュア　推奨スート：感情

ドン・サンダースの依頼でスラムに出回るドラッグの調査を行っていたキミは、偶然に惨劇の現場に居合わせた。奴はほんの戯れに、罪のない人々の命を奪った。悪魔の名はマニキュア。ドラッグの元締めである、ボルケーノ・ファミリーの相談役だ。許すわけにはいかない。
――これはひとりのフェイトが、けっして譲れない正義のために、一発の弾丸となる物語だ。

【ＰＳ：ボルケーノ・ファミリーの悪事を止める】

④推奨スタイル：カブトワリ

SCENARIO HANDOUT

コネ：キース・シュナイダー　推奨スート：外界

キミは殺し屋だ。今回の仕事は、カーライルの下部組織、ボルケーノ・ファミリーのドンの暗殺だ。依頼主はキース・シュナイダー。円卓騎士に名を連ねる、カーライルの大幹部だ。どうやらボルケーノを野放しにしておけない事情があるらしい。
――これはひとりのカブトワリが、N◎VAに巣食う闇を貫く、一発の弾丸となる物語だ。

【ＰＳ：ドン・ボルケーノを始末する】

RL用テキスト

TXT 4 RULER

■ストーリー

カーライル・シンジケート傘下のボルケーノ・ファミリー。密かに日本軍の支援を受けた彼らは、ドラッグの売買と、未登録市民の搾取によって、レッドエリアで拡大を続けていた。下部組織の暴走に危機感をつのらせたN◎VAカーライルは、本国に打診して、サンダース・ファミリーをN◎VAへと呼び寄せる。昔気質のマフィオーソ、ドン・サンダースは、厳格でありながら公正なやりかたで、N◎VAカーライルの規律を正していく。

しかし、そんな彼らを疎ましく思ったドン・ボルケーノは、ドン・サンダースとその一人娘、オリヴィアの暗殺を試みる。そして、暗殺を三合会の仕業であると偽装し、ストリートに戦争を起こそうと画策する。

彼の計画は半ば成功するが、一人娘のオリヴィアはキャストの活躍によってからくも生きのびる。父の死を知ったオリヴィアは、ドン・ボルケーノへの復讐を決意する。

キャスト達がオリヴィアと共に、ドン・ボルケーノを倒したなら、アクトは終了する。

■クライマックスへの条件

キャストがドン・ボルケーノのアドレスに向かうとクライマックスになる。

オープニングフェイズ

OPENING PHASE

●オープニング1：禁じられた遊び

シーンプレイヤー：『③フェイト』

登場：不可

◆解説

『③フェイト』のオープニング。すでにドン・サンダースから依頼を受けた状態から開始する。(*) マニキュアによる支配地への虐殺が行われ、『③フェイト』がボルケーノ・ファミリーとの戦いを決意するシーン。

『③フェイト』がマニキュアを止める（話しかける）と、その間にスラムの人々は家に閉じこもり、逃げおおせる。

◆描写

「ボルケーノ・ファミリーの支配地で行われている、ドラッグビジネスを洗い出す」……依頼を引き受けたキミは、スラム街へとやってきた。

その地は、蔓延（はびこ）るドラッグによって腐りかけていた。

▼セリフ：スラムの住人

「近頃じゃ、このあたりはボルケーノ・ファミリーがやりたい放題さ。他のファミリーの何倍も上納金をしぼりとってさ。働きざかりの男達は、みんなあいつらがばらまくドラッグに溺れちまった」

「ほら、見なよ。あいつがボルケーノ・ファミリーの相談役。マニキュアだよ……」

◆描写2

その時、一台のトラックがストリートに滑りこんでくる。怪訝な顔をする人々の前に、黒服の男達を従えたひとりの少女が姿をあらわす。

車の荷台には、巨大な木箱が積まれている。麻薬中毒の未登録市民達はぎょっと目を剥く。その木箱に詰まっているのは、彼らが求めてやまないドラッグだ。

▼セリフ：マニキュア

「みんなもうお薬を買うシルバーがないんでしょう？

だから、あたしがプレゼントしてあげる。まあ、ボランティアってやつね。さあ、どーぞ♪」

（ドラッグに群がった人々を撃ち殺す）「あのね、この地区はもう用済みなのよ。しぼりとるものはみんなしぼりとったから、あとは好きにしなさいって、ボスが言うの。だから、一度やってみたかった遊びをやってみることにしたわけ。うふふ、人間狩りってやつをね」

（サブマシンガンを乱射しながら）「あははっ！　ほーら、はやく逃げないとどんどん死んじゃうわよ。う～ん、爽快♪」

（『③フェイト』が止めに入った）「あら、ずいぶんといきのいいのがいるわね。悔しいの？　あははっ、あたしあなたのその顔とっても気に入っちゃった。あたしのことを夢に見て、毎晩悪夢にうなされるといいわ。自分の無力さに、一生苦しみなさい」(*)

「あらら。み～んな、家に閉じこもっちゃった。これじゃ、ゲームにならないじゃない。まあ、いいや。もう飽きちゃったし」

「あなた、名前はなんて言うの。ふぅん、『③フェイト』って言うんだ。いいわ、また遊びましょう。今度は念入りに殺してあげる」

『③フェイト』への依頼

『③フェイト』は依頼を引き受けてはいるものの、シナリオ上では、義侠心で動くことが期待されている。

マニキュアに攻撃した場合

マニキュアに敵意を向けた場合、脇に控えていたラフィンマンが兄をかばう。

◆結末

一連の会話を終えると、マニキュアは車に乗り込んで去っていく。ボルケーノ・ファミリー……奴らを野放しにしておくわけにはいかない。シーンを終了する。

●オープニング2：放たれた弾丸

シーンプレイヤー：『④カブトワリ』

登場：不可

◆解説

『④カブトワリ』のオープニング。キース・シュナイダーからドン・ボルケーノ暗殺の依頼を受ける。

◆描写

スラムの一角にあるホテル、サマセット。そこはキース・シュナイダーと彼の私兵団、アロンダイトの根城だ。

キースは軽薄なにやけ顔を浮かべ、キミの訪問を歓迎した。

▼セリフ：キース・シュナイダー

「標的はドン・ボルケーノ。カーライルのアンダーボスにして、ボルケーノ・ファミリーのトップです」

「彼は支配地域での勝手なビジネスで私腹を肥やしています。カーライルへの奉仕の義務に関しても、真摯な態度がミラレマセーン」

「困ったことに、ドン・クーゲルはストリートのビジネスにはあまり興味がないようなのです。しかし、だからといって好き勝手されては、他の者にしめしがツキマセン」

「ドン・ボルケーノは狡猾な男です。彼には腕利きの側近もいます。そう簡単に、あなたの餌食にはならないでしょう。しかし、同時に敵の多い男でもある。敵の敵は味方……利用できるものは、なんでも利用してください」

◆結末

キースは1ゴールド（5報酬点）を手渡す。『④カブトワリ』が承諾すると、シーンを終了する。

●オープニング3：ゴッドファーザーの娘

シーンプレイヤー：『②レッガー』

登場：不可

◆解説

『②レッガー』のオープニング。ドン・サンダースから、オリヴィアの世話係を命令されるシーン。『②レッガー』が警護役として『①カブト』を雇う展開を想定している。

◆描写

キミはドン・サンダースに呼び出され、ホテルの一室へと通された。常に寡黙なボスは、今日は心なしか饒舌だった。

▼セリフ：ドン・サンダース

「『②レッガー』、今度、オリヴィアがＮ◎ＶＡに遊びに来る。君には、Ｎ◎ＶＡにいる間、娘の身辺を頼みたい」

「妻は、娘が幼い頃、病で先立った。今となってはオリヴィアの幸福だけが、私の生き甲斐なのだよ」

「あの子は誇り高きサンダースの血を受け継いでいる。だが、私は娘を、こんな稼業に関わらせたくないのだ。だから、私はオリヴィアにはなにも告げずに、大切に育ててきた。その甲斐があって、オリヴィアはこの荒んだ時代には珍しいほど、純真な女の子に育ってくれた……」

「そのオリヴィアが私を訪ねて、旅行に来るのだ。この災厄の街、トーキョーＮ◎ＶＡにだ。あの子はニュー・フォートにすら、片手の指で数えられるほどしか行ったことがないというのに！」

「私は常に誇り高く、公正な男でありたいと心がけている。しかし、オリヴィアに危害が加えられれば、少々冷静さを欠いてしまうかもしれない。私の言っている意味がわかるかね？」

「オリヴィアの身辺警護の手配は、君に任せる。この資金で、一流のカブトを雇ってくれ。私は君を信頼している。万が一の間違いもあってはならない」

（髪飾りを差し出す）「それと私の代わりに、これを娘に渡してほしい。私は組織の会合で、オリヴィアの迎えには行けない。これは詫びのしるしだ」

◆結末

ドン・サンダースは1プラチナム（10報酬点）を『②レッガー』に手渡す。この1プラチナムは『①カブト』と分配することを想定している。『②レッガー』が承諾すると、シーンを終了する。

●オープニング4：騎士と姫

シーンプレイヤー：『①カブト』

登場：不可

◆解説

『①カブト』のオープニング。『②レッガー』も自動登場。房総南国際空港で、オリヴィアを出迎えるシーン。

◆描写

房総南国際空港のロビーで、『①カブト』と『②レッガー』は、護衛対象を待っている。今回の仕事は、ドン・サンダースの一人娘の身辺警護だ。

しばらくすると、黒服の男たちを引き連れて、ひとりの娘がやってきた。

▼セリフ：オリヴィア

「あなたが、わたしを守ってくださる騎士様ですか？」

「わたしはオリヴィアと申します。ずっと、山奥のお屋敷で暮らしていたものですから、このような都会の

喧騒ははじめてで……びっくりしていたところだったんです。あなたのような人が側にいてくれて、とても心強いです」
「ところで、お父様はお迎えには来てくださらないのですか？」
（髪飾りを手渡す）「まあ、素敵……。でも、こんなものでは、もう誤魔化されません！」
「お父様ったら、いつもそうなんです。わたしにはお仕事のことをなにも教えてくださらないんです。わたし、もう立派なレディーですのに、子供扱いして！
いくらなんでも過保護すぎます！」
「『①カブト』はお父様のお仕事をご存知なのですか……？」
「……わかっています。わたしだって、お父様を困らせるつもりはありません。お父様はきっと、みんなを幸せにする大切なお仕事をしてるんだと思います。だって、わたしの愛するお父様は誰よりも優しくて、世界でいちばん立派な人なんですから！　だから、ちょっとさびしいですけど、お忙しいお父様をわたしのわがままで困らせるようなことはしないって決めてるんです」
「そのかわり、『①カブト』がわたしの旅をしっかりエスコートしてくださいね♪　わたし、N◎VAで見て回りたいところがたくさんあるんです！」

◆結末

オリヴィアは星のようにきらめく瞳で、『①カブト』に微笑みかける。シーンを終了する。

No Image

オリヴィア

ミストレス●、マネキン◎、レッガー

▼解説

「おねがいします。どうか、わたしの弾丸となってください」

ドン・サンダースの一人娘。北米の片田舎の邸宅で、静かに暮らしていた。蝶よ花よと育てられたため、かなりの世間知らず。父親の稼業についても、なにも知らない。しかし、その身体には誇り高きサンダースの血がたしかに流れている。復讐を語るとき、彼女のペルソナはレッガーとなる。

神業のみをもつゲストとして扱い、キャストに対して《ファイト！》（展開によっては《ブリーズ！》）を使用する。

No Image

ドン・サンダース

エキストラ

▼解説

「オリヴィアすまない……！」

カーライル・シンジケートの下部組織、サンダース・ファミリーのドン。災厄前から北米に根付く昔気質のマフィアの血筋で、古参のマフィア達の尊敬を集めている。勢力拡大には関心を示さなかったが、アーサー・カーライルの命令で、N◎VAへと進出することになった。

亡き妻との間の一人娘、オリヴィアを溺愛している。

リサーチフェイズ

RESEARCH PHASE

●イベント1：ドン・サンダースの決意

条件：リサーチフェイズ最初のシーン
シーンプレイヤー：『③フェイト』
登場：『③フェイト』の事務所に準ずる

◆解説

『③フェイト』がボルケーノ・ファミリーについて、依頼人であるドン・サンダースに報告するシーン。

◆描写

『③フェイト』があの地獄から帰還してしばらくのち。探偵事務所に、ひとりの男が訪ねてきた。今回の依頼人、ドン・サンダースだ。

▼セリフ：ドン・サンダース

「『③フェイト』、調査の進捗はどうだ？」
「そうか……そこまでのことになっているのか」
「我々はたしかに悪党だ。だが、銃をもって脅すだけでは、人は従わん。ボルケーノ・ファミリーのやりかたで、長く続くはずがない」
「N◎VAカーライルの規律を正す……それが私が“約束の王”から与えられた使命だ。やはり、ボルケーノを放ってはおけない。私も覚悟を決めよう」
「私はこれからドン・ボルケーノと話をしてくる。『③フェイト』、引き続き、ボルケーノの動向を探ってくれ。この件にはなにか裏がある。嫌な予感がするんだ……」

◆結末

ドン・サンダースは『③フェイト』に3シルバー（3報酬点）を渡し、引き続き調査を依頼する。

●イベント2：N◎VAの休日

条件：【オリヴィアのN◎VA観光プラン】の情報をすべて入手し、N◎VA観光に出発した
シーンプレイヤー：『①カブト』
登場：〈社会：ストリート〉／SR：イエロー

◆解説

オリヴィアにアサクサ観光に連れ出される。オリヴィアの無邪気な様子を演出し、キャストとの親交を深めるシーン。しかしその最中、ボルケーノ・ファミリーの刺客に襲われる。

◆描写

トーキョーN◎VAの観光スポット、アサクサ。エキゾチックな街並みを、外国人観光客が行き交う。

雷門の正面で両手を広げ、オリヴィアは歓声をあげた。

▼セリフ：オリヴィア

「ここが浅草寺……！　なんて、ファンタスティックな宮殿なのでしょう！　ここには今もトーキョーN◎VAのショーグンが住んでいるのですか？」
「これがあの有名な雷おこしですね。ライスをローストして甘いお菓子にするなんて、とってもニューロです！」
「うふふ、わたしのニューロタング、店員さんにもちゃんと通じましたよ。がんばって、お勉強したかいがありました」
「次は、スカイツリーに行きましょう！　知っていますか？　スカイツリーは足元からてっぺんまで、ぜんぶで1268メートル！　展望台から、N◎VAが一望できるらしいです」

◆解説2

マニキュアが登場し、オリヴィアに話しかけるやいなや《とどめの一撃（クーデグラ）》によって彼女を殺害する。キャストが打ち消さなければ、オリヴィアは死亡する。

《とどめの一撃（クーデグラ）》を打ち消したなら、カット進行が発生する。敵はマニキュアと1グループのカブトワリ・トループ。トループの人数は15人とし、データは『TNX』P288を使用する。

キャスト達を1エンゲージとし、カブトワリ・トループを近距離、マニキュアを中距離に配置する。

マニキュアは、カット進行中は神業を使用しない。肉体ダメージを受けたなら、全身義体の効果を使用する。

◆描写2

オリヴィアは見ているこっちが恥ずかしくなるほどのはしゃぎようだ。そんな彼女に目を留めたのか、オリヴィアと同じ年頃と思しき、ひとりの少女が話しかけてきた。

▼セリフ：マニキュア

「ふふっ。あなた、N◎VAははじめて？」
「そう、旅を楽しんでいるみたいでなによりだわ。でもあなたはこの街に必要ないの。恨むなら、あんたの父親を恨みなさい。じゃあね」（※《とどめの一撃（クーデグラ）》を使用）
「へえ、あたしの一撃を止めるなんて、ずいぶんな腕っこきをつれてるじゃない。あなたみたいな田舎娘にはもったいないわ」
（倒された）「ちくしょう！　でも、もう遅いわ。今頃、ドン・サンダースはもう……」

▼セリフ：オリヴィア

「ドン・サンダース……？　お父様のことを、言っているのですか？」

◆結末

マニキュアが倒れたなら、マフィア達は車に彼女を乗せ、そのまま撤退する。マニキュアは《黄泉還り（フェニックス）》を使用して、蘇生する。シーン終了。

●イベント3：Dead End

条件：「●イベント2：N◎VAの休日」の直後
シーンプレイヤー：ルーラーシーン
登場：不可

◆解説

イベント2の直後となるルーラーシーン。一連の会話の後、ドン・ボルケーノは《天変地異（カタストロフ）》でホテルの部屋を爆破し、ドン・サンダースを殺害する。(*)

◆描写

サンダース・ファミリーが経営するホテルの一室は、血に染まっていた。

倒れたレッガー達の中央で、ドン・サンダースが椅子に縛り付けられている。そのかたわらに立つのは、深紅のスーツ姿の男。銀細工の施された懐中時計を、神経質そうな手つきで弄んでいる。

ボルケーノ・ファミリーのボス、ドン・ボルケーノは、静かに話し始める。

▼セリフ：ドン・ボルケーノ

「どうだい、この懐中時計。なかなか洒落ているだろう。災厄前の値打ちものでね。ぜんまい仕掛けだが、ちゃんとメンテナンスを欠かさなければ、一秒たりとも狂うことはない」

「ふん、あと2分しゃべれるな。それじゃあ、少々、世間話をしよう」

「俺はこう見えて、時間にうるさいタイプでね。朝起きてから夜寝るまで。食事や仕事の時間はもちろん、ベッドの上のスケジュールも、秒刻みで組み立てなくっちゃ気がすまない。おかげで、女房にも逃げられちまった。だが、俺の娘は、ちゃんと父親の主義を理解している。それで、父の日にこの時計をプレゼントしてくれたのさ。女は男を裏切る。だが、血は決して俺を裏切らない。得難い教訓さ……」

「どんな悪党でも、血をわけた子っていうのはかわいいものさ。あんたも同じだろう？　だから、始末をつける時は親子一緒。それが、俺の優しさであり、仕事の流儀なんだ」

「……時間だ。地獄で娘と暮らすがいい」

▼セリフ：ドン・サンダース

「私を殺すつもりか？　ドン・クーゲルが黙ってはいないぞ」

「オリヴィアすまない……！」

◆結末

ドン・ボルケーノは背を向け、部屋を出て行く。扉が閉じた瞬間、爆発がホテルの一室を吹き飛ばした。シーン終了。

●イベント4：少女時代の終わり

条件：「●イベント3：Dead End」の直後
シーンプレイヤー：『②レッガー』
登場：〈社会：ストリート〉／SR：イエロー

◆解説

襲撃の後、オリヴィアとキャスト達がホテルに戻り(*)、ドン・サンダースの身に起こった惨劇を知るシーン。

ドン・サンダース以外にも『②レッガー』以上の命令権をもった幹部はすべて死亡している。生き残ったファミリーの構成員は、これ以降は『②レッガー』の指示をあおぐことになる。

◆描写

ホテルの一室は、もはやその原型を留めていなかった。調度品の残骸と共に、黒焦げになったレッガー達の亡骸が、四散している。

そのうちのひとつは、ドン・サンダースのものだ。

▼セリフ：オリヴィア

「嘘、こんなのって嘘よ。『これ』がお父様のはずがありません！　お父様がこんなふうに死んでしまう理由なんて、なにひとつないんですもの……！」

「うっ。お、おえぇ……」（嘔吐し、うずくまる）

▼セリフ：サンダース・ファミリーの構成員

「ボスも幹部もみんな死んじまった。残ったのは俺達、下っ端だけ。サンダース・ファミリーはおしまいだ」

「『②レッガー』。俺達はこれからどうすればいいんだ……！？」

◆結末

『②レッガー』が構成員に対し方針を示したらシーンを終了する。　このシーンに登場したキャストは情報項目【サンダース・ファミリー襲撃事件】を得る。

●イベント5：フリル飾りの魔弾

条件：【サンダース・ファミリー襲撃事件】の情報をすべて入手
シーンプレイヤー：『①カブト』
登場：〈社会：ストリート〉／SR：グリーン

◆解説

オリヴィアが復讐を決意するシーン。(*)

オリヴィアはキャスト達に復讐への協力を依頼し、《ファイト！》を使用して『①カブト』の《難攻不落（インヴァルネラブル）》の使用回数を増やす。これは、シナリオにおいて必要な防御系神業の勘定に含まれている。もしも防御系神業に余裕がある場合、キャストの別の神業の使用回数を増やすことを選択してもよい。

もし、キャストがドン・サンダースの仕事についてここまで隠し通しているようであれば、オリヴィアはキャストに《プリーズ！》を使用して、真相を聞き出す。

復讐を止める方向で、キャストがオリヴィアを諭した場合、オリヴィアは自分を気遣ってくれたキャストに礼を言う。その上で、けっして、意を翻すことはない。

ドン・サンダースを殺害する

このシーンでドン・サンダースは死亡するが、〈コネ：ドン・サンダース〉が使用できなくなるということはない。以降は故人の人脈を利用するという解釈になるだろう。

ホテルに戻る

プレイヤーが別のシチュエーションの提案があったなら、むりにホテルを舞台にする必要はない。その場合は、DAKニュースや、サンダース・ファミリーの生き残りからの連絡で、ドン・サンダースの死を知るという展開にするとよいだろう。

復讐を決意する

「●イベント5：フリル飾りの魔弾」の前に、オリヴィアのそばに寄り添い、言葉をかけるシーンを提案するプレイヤーもいるかもしれない。これは非常によいアイデアだ。

その場合、失意のオリヴィアはキャストに「なぜ父親が殺されたのか」と理由を尋ね、ドン・サンダースの仕事や、今彼女を取り巻く状況についての回答を得ようとする。そして、状況を把握したならば、徐々に父親の復讐へと心を移していく。

◆描写

ずっと閉じられていた、ホテルのドアが開く。そこにはオリヴィアが立っていた。その横顔に、もう涙の跡はない。

▼セリフ：オリヴィア

「ドン・ボルケーノ……その方が、お父様を死に追いやったのですか」

「お父様はお優しい人でした。わたしをこの世界の醜さから遠ざけて、生きていけるように、真剣に考えてくださいました。けれど、もう、そんな子供じみた夢は終わり。わたしはお姫様ではありませんでした。わたしはマフィオーソの娘……なんですね」

「お父様亡き今、わたしがこのファミリーのボスです。そうですね？」

（髪飾りを外して、キャストに渡す）「この髪飾りを。お父様がくださったものです。プラチナムにはなります。これで、わたしが皆様を雇います」(*)

「わたしには悪党の世界の作法はよくわかりません。けれど、それでもこの身には誇り高きサンダースの血が流れているのです。それは、今熱く煮えたぎり、憤怒が全身を焼いています。皆さん、おねがいします。どうか、わたしの弾丸となってください……！」

（『①カブト』に）「あなたの依頼主であるお父様はもういません。それでも、わたしの身を守ってくださいますか？　仇の死を願う、恥知らずな女を、見捨てずにいてくださいますか？」

「これは戦争です。わたしが死ぬか、ドン・ボルケーノが死ぬかです……！」

◆結末

新たなボスは立ち上がった。そして、キミ達は彼女が放つ弾丸となる。標的はドン・ボルケーノ。奴を地獄に送るのだ――。シーンを終了する。

オリヴィアはこれ以降、基本的にキャストとチームを組む。

■情報項目

リサーチフェイズ開始時に調べることが出来る情報項目は以下のとおり。

『①カブト』＆『②レッガー』：ドン・サンダース、オリヴィア、オリヴィアのN◎VA観光プラン

『③フェイト』：ドン・サンダース、ボルケーノ・ファミリー、マニキュア

『④カブトワリ』：ボルケーノ・ファミリー、ドン・ボルケーノ

◆ドン・サンダース

〈社会：ストリート、警察〉

10　カーライル・シンジケートのアンダーボス。サンダース・ファミリーを率いている。その性格は厳格かつ公正。

12　アーサー・カーライルの命令でN◎VAに進出した。N◎VAカーライルの規律を正し、暴走しがちな下部組織の手綱を握ることを期待されている。
しかし、下部組織のひとつ、【ボルケーノ・ファミリー】とはその経営方針を巡って対立しており、前途は多難だ。

14　『③フェイト』という探偵と接触し、【ボルケーノ・ファミリー】に関わる調査を依頼している。

16　一人娘の【オリヴィア】を溺愛しており、マフィアの世界に関わらせたくないと思っている。

◆オリヴィア

〈社会：ストリート、警察〉

8　【ドン・サンダース】の一人娘。北米のサンダース邸で生活していたが、N◎VAで仕事をする父のもとを訪ねてきた。『①カブト』『②レッガー』が護衛についている。

10　世間知らずの箱入り娘で、父親がマフィアのドンであることを知らない。ドン・サンダースのことを誰よりも尊敬している。

◆オリヴィアのN◎VA観光プラン

〈社会：ストリート、企業、メディア〉

8　ドン・サンダースは、娘をファミリーの稼業に関わりのある場所には連れて行かないように言っている。また、レッドエリアなど治安の悪い地域は避けるべきだろう。

10　オリヴィアはアサクサ観光を希望している。エキゾチックな街並みとスカイツリーは外国人観光客に人気のスポットだ。

12　オリヴィアの観光についての下調べや準備が完了した。この情報をもっているキャストが、オリヴィアとチームを組んでいる場合、N◎VA観光への出発を宣言することができる。

オリヴィアの髪飾り

1プラチナム（10報酬点）として扱う。プレイヤー間で相談し、自由に分配すること。もちろん、そのままとっておき、後でオリヴィアに返却してもよい。

もしも『②レッガー』がオリヴィアに髪飾りを手渡していない場合、ドレスの詰まったトランクなどに置き換えて、演出を行うとよいだろう。

◆ボルケーノ・ファミリー
〈社会：ストリート、警察〉

10　レッドエリアで勢力を拡大する、カーライル・シンジケートの下部組織のひとつ。ボスは【ドン・ボルケーノ】。

12　支配地からの搾取によって、私腹を肥やしている。しかしその苛烈さゆえ、支配地の急速な疲弊が進んでいるようだ。委員会（コミッション）でも幾度か問題にされているが、ドン・クーゲルは沈黙を保っている。

14　Ｆ（フロヨ）(*) という【新種のドラッグ】の取引を専有しており、主な資金源になっている。その製法や仕入れのルートは、カーライル・シンジケートにさえ、秘密にしている。

16　本国の命令で支配地に横入りしてくる形となった下部組織、サンダース・ファミリーと折り合いが悪く、衝突も時間の問題だと噂されている。

◆マニキュア
〈社会：ストリート、警察〉

12　【ボルケーノ・ファミリー】のナンバー２にして、ドンの相談役。【新種のドラッグ】の売買をドンから任されている。スラムを恐怖で支配し、円滑にビジネスを進めている。

14　【ドン・ボルケーノ】の長男で、その後継者と目されている。かつては美男子として知られていたが、銃撃戦で生身の肉体を失った。以来、麗しい少女型の全身義体を愛用している。

16　サンダース・ファミリーのドンの娘、オリヴィアを襲撃する計画を立てている。

◆ドン・ボルケーノ
〈社会：ストリート、警察〉

10　カーライル・シンジケートのアンダーボス。【ボルケーノ・ファミリー】を率いている。

12　時を操るバサラ。娘からもらった銀細工の懐中時計を愛用している。

14　血縁を非常に重視しており、ファミリーの上層部を親族でかためている。特に実子である【マニキュア】【ラフィンマン】を、重用している。

16　『④カブトワリ』という殺し屋が、命を狙っている。

◆新種のドラッグ
〈社会：ストリート、警察、テクノロジー〉

10　【ボルケーノ・ファミリー】が取引している新種のケミカルドラッグで、通称Ｆ（フロヨ）。

18　出どころは日本軍だという噂がある。ドン・ボルケーノと日本軍の間にはなんらかの取引があるらしい。→【日本軍とドン・ボルケーノの取引】

◆ラフィンマン
〈社会：ストリート、警察〉

10　【ボルケーノ・ファミリー】の用心棒。巨大な体格の、寡黙なカブト。

12　【ドン・ボルケーノ】の次男。声帯を損傷しており、喋る時はウェブを介して、音声データを送る。陽気な性格で、いつもひっきりなしに気の利いたアメリカンジョークを喋っている。しかし、家族以外に彼の言葉を聞いた者はいない。

◆日本軍とドン・ボルケーノの取引
〈社会：ストリート、警察〉

12　Ｆ（フロヨ）の成分は、かつて日本軍が扱っていたドラッグパッチ、フラッシュとの強い関連性がみられる。

14　日本軍は、現在ストリートの最大勢力となったカーライル上層部に、スパイを送り込みたいと考えている。そのために【ドン・ボルケーノ】と接近し、情報と引き換えに、さまざまな支援を行っている。

◆サンダース・ファミリー襲撃事件
〈社会：ストリート、警察〉

8　オリヴィアを襲撃し、ほぼ同時刻にドン・サンダースを殺害している。どちらの犯行も、同じ人物が手引していることは間違いない。

10　すべての証拠は、カーライルの支配地を狙う、三合会の計画であることを示している。

14　本当の犯人は【ドン・ボルケーノ】だ。しかし、証拠はすべて【マニキュア】の《不可触（アンタッチャブル）》によって偽装されている。警察はもちろん、カーライルに制裁を求めることも不可能だ。

16　オリヴィアを仕留め損なったことは、ドン・ボルケーノの美学をはなはだしく損なった。彼女を葬るまでは何度でも刺客を放つだろう。

18　ドン・ボルケーノには、隠された思惑があるようだ（【ドン・ボルケーノの思惑】）。

◆ドン・ボルケーノの思惑
〈社会：ストリート、警察〉

16　カーライルと三合会の全面戦争を引き起こそうとしている。ドン・ボルケーノは日本軍の支援によって手柄をたて、N◎ＶＡカーライルでの発言力を得るとともに、三合会の支配地を横取りしようと考えているようだ。

21　ドン・ボルケーノは三合会との開戦を訴えるため、ドン・クーゲルのもとに向かった。アドレスを入手する。

フロヨ
　ヨーグルトを凍らせた氷菓、フローズンヨーグルトの略称。マニキュアの大好物。ドラッグの命名家族会議が行われた際、「じゃあ、もうフロヨでよくない？　頭がキーンとするクールなドラッグってことで。フラッシュと同じで、頭文字Ｆだし、ぴったりでしょ？　ちょっと、ラフィンマン。冷凍庫からおかわり持ってきなさい！」との発言によって、決定された。

クライマックスフェイズ

CLIMAX PHASE

●クライマックス1：沈黙の掟

◆解説

ドン・ボルケーノのアドレスに向かうと発生するシーン。ドン・ボルケーノはドン・クーゲルと幹部に向かって、三合会との開戦を訴えている。

キャストが攻撃しようとすると、カーライルの護衛がキャスト達を阻む。ドン・ボルケーノに《真実（トゥルース）》を使うと、彼は己の悪事を告白する。すると、ドン・クーゲルは護衛を下がらせ、キャストとボルケーノ・ファミリーの戦いを静観する。

◆描写

カーライルの会議場。居並ぶ幹部達に向かい、ドン・ボルケーノは熱弁を振るっている。

▼セリフ：ドン・ボルケーノ

「奴らは誇り高き男、ドン・サンダースを卑劣な手で、暗殺した。俺たちはあの薄汚いチャイニーズに、マフィオーソの矜持をみせなきゃならない。そうだろう？」

「おや、サンダースのご令嬢か。父君のことは、実に残念だ。だが、安心してほしい。ドン・サンダースの仇は、このドン・ボルケーノがとろう。三合会に正義の鉄槌を下すんだ」

（※《真実（トゥルース）》を使った）「ああ、そうさ、ドン・サンダースをやったのはこの俺さ」

「おっと、俺に復讐するっていうのか？　俺の背後には日本軍がついているんだぜ。その意味がわからないアンタらじゃないだろう」

「北米連合？　カーライル？　まったく、くだらない話だと思わないか。俺たちがどれだけ抗おうと、このニューロエイジの覇者は、日本と日系企業。ガイジンはそのおこぼれに預かるしかないのさ」

「だから、俺はこのチャンスにのった。日本人の口利きで、俺の愛する子供達に日本国籍をプレゼントするのさ。それがよき親っていうもんだ。そうだろう？」

▼セリフ：ドン・クーゲル

「ドン・ボルケーノは偉大な男だ。彼が嘘をついているというのなら、おまえ達が証明してみせなければならない」

（※ドン・ボルケーノに《真実（トゥルース）》を使った）

「……同胞殺しは、最大の禁忌だ。ドン・ボルケーノ。おまえは沈黙（オメルタ）の掟を破った」

「だが、裁きをくだすのに、俺よりふさわしい者達がいるようだ。戦って、名誉を証明してみせろ。それが、我々の流儀だ」

◆結末

カット進行の準備が整ったなら、ＳＰＳ：「ボルケーノ・ファミリーを貫く弾丸となる」を登場しているキャスト全員に渡し、シーンを終了する。

●クライマックス2：ヴァンデッタ！

◆解説

カット進行が発生する。敵はドン・ボルケーノ、マニキュア、ラフィンマン、カブトワリトループ×2（キャストが3人の場合は×1）。トループの人数は20人とし、データは『TNX』P288を使用する。

キャスト達を1エンゲージとし、ドン・ボルケーノとラフィンマンを近距離、マニキュアとカブトワリトループを中距離に配置する。

ドン・ボルケーノはカット進行に入ると同時に《ファイト！》を使用して、マニキュアの《とどめの一撃（クーデグラ）》を増やす。

◆描写

ドン・ボルケーノの隣に、ふたりの男女が寄り添う。

そして、オリヴィアの復讐は始まった。

▼セリフ：ドン・ボルケーノ

「さっさと片付けてしまおう。やれやれ、それにしたって大仕事だな！　ディナーの時間まであと2時間。それまでに、Ｎ◎ＶＡカーライルの大掃除をしなけりゃならんとは！」

「さあ、息子たち。家族の絆を、こいつらに思い知らせてやろう！　しくじるんじゃないぞ。『夕食は家族みんなで』それがボルケーノ・ファミリーのルールだからな」

「ぶっ！　おい、ラフィンマン。こんなときに冗談はやめてくれ。笑いすぎて、元力が出せないだろう！　ここは正念場なんだ。シリアスにいこう」

（倒れた）「みんな、すまない。愛しているよ……」

▼セリフ：ラフィンマン

「……」（*）

▼セリフ：マニキュア

「あははっ！　アンタのジョークは、いつだって最高ね、ラフィンマン！　だから、いつも言ってるのよ。アンタはカブトなんかより、コメディアンになるべきだったって！」

「お気に入りのドレスも義体もボロボロ。おまけにこの土壇場でボスに恥をかかせるなんて……まったく頭きちゃうわ」

「あたしたち、ボルケーノ一家の幸せのために、アンタらみんな死んでちょうだい？」

（倒れた）「時計の針は戻らない。アンタの父親はもう二度と帰ってこないのよ。ふふっ、ざまあみろ……！」

◆結末

カット進行が終了したなら、シーンを終了する。

ラフィンマンのロールプレイ

ラフィンマンは（キャストに聞き取れるセリフは）しゃべらない。RLはラフィンマンのセリフを受けて、和気あいあいとするボルケーノ・ファミリーを演出するだけでよい。

それだけで、このボルケーノ・ファミリーという一家の閉鎖性が、プレイヤーに伝わるはずだ。

エンディングフェイズ

ENDING PHASE

●エンディング１：戻らない日々

ルーラーシーン

◆解説

全員登場。クライマックス２の直後となるシーン。復讐を果たしたオリヴィアが、ひとりの少女に戻り、父の死を悲しむ。

◆描写

オリヴィアは、仇となるドン・ボルケーノの死体を前に、立ち尽くしていた。不意にその瞳から、ぽろぽろと大粒の涙がこぼれおちる。

▼セリフ：オリヴィア

「お父様、お父様……うっ、ひぅっ……」

▼セリフ：ドン・クーゲル

「審判は下った。裏切り者は死に、ドン・サンダースの名誉はその娘によって守られた」

◆結末

オリヴィアは、嗚咽を噛み殺し、肩を震わせる。シーンを終了する。

●エンディング２：さよなら、プリンセス

シーンプレイヤー：『①カブト』

◆解説

『①カブト』のエンディング。オリヴィアはサンダース・ファミリーのボスとして、ドン・クーゲルの下で戦い続ける道を選ぶ。そして、『①カブト』に自分のそばにずっといてくれるように頼む。

◆描写

オリヴィアの護衛というキミの任務は無事完了した。それから数日後、オリヴィアはキミをアサクサへと呼び出した。

オリヴィアは行き交う人波を見つめている。その横顔は、相も変わらず美しい。けれど、最初に出会った頃の無邪気な輝きはそこにはない。

▼セリフ：オリヴィア

「ありがとうございます、『①カブト』。あなたのおかげで、わたしはこうして生きて、ここにいます」

「最初の滞在予定はとっくにすぎています。でも、わたしは北米には帰りません」

「わたし、お父様の跡を継いで、サンダース・ファミリーを率いていくつもりです。残ったファミリーのみんなをそのままにはしておけませんから。天国のお父様はお喜びにはならないでしょうけど……」

「夜ひとりでいると、怖くなるんです。お父様もドン・ボルケーノも死んで、次はわたしの番なんじゃないかって……。きっと、このトーキョーＮ◎ＶＡという街は、罪人の命を呑みこむ怪物のようなものなんです。わたしも、いつか……」

「わたし、今からドン・クーゲルに挨拶に行くつもりです。『①カブト』、一緒に来てくださいませんか……？　あなたにふさわしい地位を用意します。フリーでいる以上の報酬もお約束します。『①カブト』がずっとそばにいてくれるなら、わたしはきっと悪夢に怯えずに、夜眠ることができます。だめ、でしょうか……？」

（『①カブト』が護衛を続ける）「ありがとう、『①カブト』。やっぱりあなたはわたしの騎士様です……！」

「さあ、まいりましょう。ドン・クーゲルをお待たせするわけにはいきません」

（『①カブト』が護衛をおりる）「……そうですね。あなたのようなやさしい人に、これ以上のお手伝いはさせられません。騎士様が守るにふさわしい、可憐な姫君はここにはいませんから」

「さようなら、ありがとう。あなたに会えてよかった」

◆結末

『①カブト』がオリヴィアの申し出に対して返答したところで、シーンを終了する。

●エンディング３：憎しみの炎

ルーラーシーン

◆解説

『①カブト』のエンディングの直後のシーン。

ドン・ボルケーノの一人娘が、オリヴィアの前に現れる。オリヴィアの復讐は、また別の憎しみを呼び起こし、次なる復讐の種を撒いたのだ。

◆描写

『①カブト』との話を終え、歩き出したオリヴィア。

その背中を見つめる人影があった。

雑踏の中にたたずむひとりの少女。その顔は憤怒に歪み、まばたきもせず、まっすぐオリヴィアを睨みつけている。細い指先に握られているのは、銀細工の懐中時計。

あれは、たしか……。

◆結末

少女の復讐は終わった。そして、次の復讐が始まる。その連鎖に終わりはない。憎しみの炎が、この災厄の街を焼きつくすその日まで……。

■他キャストのエンディング

次に提示するのはエンディングの一案である。プレイヤーからの要望に合わせて、自由に変更して構わない。

▼②レッガー

オリヴィアが、マフィアとしての生き方を教えて欲しいと『②レッガー』にこう。『②レッガー』は彼女を一人前のドンとして導かなければならない。

▼③フェイト

ドン・サンダースの葬儀が行われ、彼の死を弔う。そこにスラムの住人たちが訪れ、『③フェイト』に礼を言う。

▼④カブトワリ

キース・シュナイダーが『④カブトワリ』の仕事を、賞賛する。彼はオリヴィアの決断を聞いて、愉快そうに笑う。

■ポストアクト

各々のエンティングを演出したならば、経験点の計算等、ポストアクトの準備に入る。オリヴィアを守り、ドン・ボルケーノを倒していればＳＰＳ：「ボルケーノ・ファミリーを貫く弾丸となる」を達成したとみなす。ＳＰＳは経験点５点となる。

ポストアクト後、シナリオは終了となる。

シナリオ運用の指針

●このシナリオについて

このシナリオは父親を殺されたヒロイン、オリヴィアの弾丸となり、その仇を打ち倒すというストーリーだ。アクトトレーラーやアクトハンドアウトでも書かれているが、父親であるドン・サンダースの死は決定事項であり、覆すことはできない。

そして、キャストは最終的にはオリヴィアの復讐に協力することが求められる。復讐をテーマにしたシナリオであり、完全なハッピーエンドにはならないことを、事前にプレイヤーに周知しておくとよいだろう。

●オリヴィアはいつ真相を知るか

オリヴィアは箱入り娘として育てられ、父親であるドン・サンダースの仕事を知らないという設定である。彼女は「●イベント２：N◎VAの休日」のマニキュアの捨て台詞から疑念を感じ、「●イベント５：フリル飾りの魔弾」の発生までにオリヴィアは父についての真実を知ることになる。キャストが真相を打ち明けようとしない場合、オリヴィアはキャストに《プリーズ！》を使用して、これを聞き出そうとする。

しかし、キャストが《不可触》などを使用して、本気で真相を隠しとおそうと考えた場合、これを止めることは難しい。

あらかじめ「オリヴィアにどのように真相を打ち明けるかは、プレイヤーが見せ場として、自由に演出して構わない」「しかし、最後まで隠し通すことはシナリオ上想定されていない」とプレイヤーにはっきり打ち明けておくと、アクト進行はスムーズになるだろう。

●ドン・ボルケーノの娘

本シナリオの最後に位置するルーラーシーンは、いささかビターな後味を残すものだ。基本的にはドン・ボルケーノの娘についての物語は、このシナリオで扱うべきテーマではないため、そのままシナリオを終了してしまって問題ない。しかし、プレイヤーはドン・ボルケーノの娘とコンタクトをとったり、その襲撃に対策をとりたいと希望するかもしれない。

テストプレイでは、追加でシーンを設けることで、プレイヤーの希望に対応したケースもあった。ドン・ボルケーノの娘はエキストラであるため、キャストは神業を使わなくても、望むとおりに扱って構わない。

また、RL は必ずしもシナリオの記述どおりにエンディングを演出する必要はない。もしもこの結末がそのアクトにふさわしくないようであれば、シナリオにとらわれず、それまで積みあげてきたキャストのドラマを優先してほしい。

ドン・ボルケーノ

バサラ、ミストレス●、クロマク◎

▼設定

「さあ、息子たち。俺達、家族の絆を、こいつらに思い知らせてやろう！」

ボルケーノ・ファミリーのドン。野心家で、強引な方法で勢力拡大を続けている。本国の肝いりでN◎VAに進出してきた、サンダース・ファミリーを疎ましく思っている。

時使いのバサラであり、何事もスケジュールどおりに運ぶことにこだわりを感じている。また、子煩悩な一面もあり、娘からプレゼントされた銀細工の懐中時計を愛用している。

▼神業

天変地異■　ファイト！■　腹心□

▼能力値

理性：5／12　感情：7／15
生命：3／9　外界：6／13
CS：7（AR：1）

▼技能

★射撃	3♠♣♡◆
★自我	2♤♧♡◆
★回避	2♤♧♥◆
※元力⑪：時使い	2♤♧♥◆
※ジャンヌダルク	2♤♧♥◆

▼アウトフィット

・S13イーグル……電：13
攻：P+7　受：—　射程：近
・フォーマリティ……電：15

※防（S／P／I）：2／2／2

▼戦闘プラン

セットアッププロセスに〈†ジャンヌダルク〉を使用し、マニキュアとカブトワリトループの与える物理攻撃のダメージに+4する。この効果はカットの間持続する。

マニキュア（もしくはラフィンマン）の攻撃の際に〈†元力⑪：時使い〉を使用し、達成値を+4する。判定は単独で、目標値が10。【AR】を消費する。

キャストが3人の場合、ドン・ボルケーノの《腹心》の効果は、『TOS』P36の「ゲスト（ラフィンマン）を取得する」に変更されており、ダメージを治癒する効果では使用できないとする。このことはカット進行開始時に、プレイヤーに宣言すること。

マニキュア

カブトワリ、チャクラ、レッガー●◎

▼設定

「あたしたち、ボルケーノ一家の幸せのために、アンタらみんな死んでちょうだい？」

ドン・ボルケーノの長男で、ファミリーの相談役。かつては誰もが羨む美男子として知られていたが、北米時代に銃撃戦で生身の肉体を失って以来、麗しい少女型の義体を愛用している。

頭はきれるものの、その性格は残忍そのもの。弱者を虐げることに快感をおぼえている。なお、性的嗜好は男も女もOKだ。

▼神業

とどめの一撃□　黄泉還り■　不可触■

▼能力値

理性：6／13　感情：4／13
生命：7／12　外界：4／10
CS：8（AR：1）

▼技能

★射撃	4♠♣♥◆
★回避	2♠♧♥◇
※クイックドロー	3♤♧♡◇
※貫きの矢	3♠♧♥◆
※縮地	2♠♣♡◇
※鉄砲玉	2♠♧♥◇

▼アウトフィット

・AKR48……電：13
攻：P+6　受：—　射程：近～中
フルオート可能でFA2。
・フォーマリティ……電：15
・全身義体……電：21
1回だけ肉体ダメージを打ち消す。　□

※防（S／P／I）：2／2／2

▼戦闘プラン

セットアッププロセスで〈縮地〉を使用。そのカットの間、マニキュアの【CS】を＋【生命】（7）する。1シーンに1度使用可能。

メジャーアクションでは〈射撃〉〈鉄砲玉〉〈貫きの矢〉を組み合わせて中距離までの対象にフルオート射撃。判定値は+3、攻撃力は［P+12］。ドン・ボルケーノの〈†ジャンヌダルク〉の効果を受けているなら［P+16］となる。更に［差分値］までの防御力を無視する。

2度目以降の攻撃ではマイナーアクションで弾倉交換を行う。

自分が肉体ダメージを受けた場合には、全身義体を用いて1回のみ無効化する（リサーチのカット進行で使用したならば、クライマックスでは使用できない）。

ラフィンマン

カブキ●、カブト◎、カタナ

▼設定

「……」（すごく面白いジョーク）

ドン・ボルケーノの次男。身長2メートルを超える大柄な体格で、その身を挺して家族を守る。

兄の傍に無言で寄り添い寡黙な印象があるが、実は陽気な性格。以前の戦いで声帯を損傷しており、喋る時はウェブごしに音声データを送る。マシンガンの様に連射されるキレのいいアメリカン・ジョークはどんな修羅場も笑いで染め上げるというが、家族以外に彼の言葉を聞いた者はいない。

▼神業

チャイ□　難攻不落□　死の舞踏□

▼能力値

理性：4／10　感情：4／12
生命：8／13　外界：6／9
CS：8（AR：1）

▼技能

★自我	2♤♣♥◇
★白兵	4♠♣♥◆
※ラッキーストライク	3♤♣♥◆
※金剛	3♠♧♥◆
※居合い	2♤♧♡◇
※カバーリング	3♠♧♥◆

▼アウトフィット

オフィウクス……電：16
攻：S+6　受：2　射程：至近～近
オートアクションで準備可能。
・メタルアーマー……電：13
・アサルトナーブス……電：16
マイナーで使用。与える物理D+2。
・鋼猿……電：13
白兵攻撃で与える肉体Dに常に+2。

※防（S／P／I）：2／3／3

▼戦闘プラン

可能なかぎり、ドン・ボルケーノと同じエンゲージに留まる。

マイナーでアサルトナーブスを使用、メジャーは〈白兵〉で物理攻撃を行う。達成値は+2、攻撃力は［S+10］。更にダメージカードを出した後、山札から〈ラッキーストライク〉の判定を行う。成功したならばダメージに＋［カードの数字］点。ファンブルした（絵札だった）場合、ダメージに-［カードの数字］点。

肉体ダメージを受けた場合は〈金剛〉で［判定に使用したカードの数字］点軽減する。1カット1回まで。

ドン・ボルケーノが肉体ダメージを受けたら〈†カバーリング〉でダメージを引き受ける。カット中3回まで。

■本作品について

本作品は、株式会社エンターブレインより刊行された『トーキョーN◎V A THE AXLERATION』や、その関連商品を取り扱った二次著作物（シナリオデータ）です。
『トーキョーN◎V A THE AXLERATION』とその関連商品、および『ゲーマーズ・フィールド誌』は、有限会社ファーイースト・アミューズメント・リサーチの著作物です。
本書の内容はフィクションであり、実在する歴史上の人物、団体、地名などとは一切関係がありません。
また、本書は特定の思想、信条、宗教などを擁護あるいは非難する目的を持って書かれたものではありません。

■利用規定

本作品は無料で自由にアクトに利用することが出来ます。
ただし、シナリオを使用した際には必ず、作者にシナリオやアクトの感想を送ってください。
シナリオ製作者にとって、なによりの励みは感想を貰えることです。
ホームページ（http://dappleox.web.fc2.com/nova/NeuroCrowD/）の各シナリオのダウンロードボックス内のツイートボタンを押し、感想ツイートを投稿してください。
（このため、本シナリオを使用するには twitter アカウントが必要になります）

また、シナリオの利用の際には以下の規約をお守りください。

① シナリオの著作権は各シナリオの作者にあります。
② シナリオの再配布、商用利用はご遠慮ください。
③ 投稿されているシナリオを利用したリプレイやプレイ動画の公開、あるいはコンベンションイベントでの使用など、特殊な使い方に関しては事前に作者に連絡を取り、可否を確認してください。

トーキョーN◎V A THE AXLERATION　投稿型シナリオ共有サイト

Neuro/CrowD

投稿シナリオ No.016 『フリル飾りの魔弾』

発行日：2015.6.26

執筆（著作権者）　あるば
イラスト　なし

企画　ニューロ／ＣＤ製作委員会
ＤＴＰ　まだら牛
素材　Z-design

連絡用メールアドレス：dapple_ox@gmail.com
サイトＵＲＬ：http://dappleox.web.fc2.com/nova/NeuroCrowD/